

プーム……。フリーク 運命などという、勝手気まぐれ、な奴を相手に、自由を奪い返そうと戦っているんだから、色んな事しなきゃならねえんだ。 いわゆる、業、カルマ、と言うやっだが、絶妙とでも言おうか、 戦う程に運命を愛さずにいられないように、社組まれて、 いるんだから、人生なんてまったくオソレイルヨ!?!?……

### 前口上

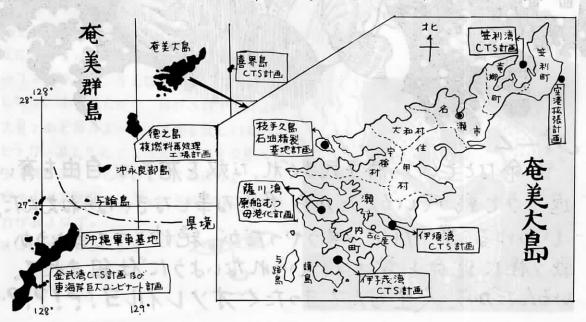
イモーレ(いらっしやい)奄美人民劇場へ!!

えー、物を語ります前に、ひとこと断っておかねばなりません。証拠がありませんので信じていたべくしかありませんが、私は決して狂ってはいない、ということです。と言いますのは、此処で、黒幕共が企んでいる事は、あまりにも空恐るしく、とうてい正気の沙汰とは思えない事だからです。

舞台は、日米帝国主義者共が、世界征覇の野望を賭けた"琉球弧種民地政策、の二大拠長、沖縄・金武湾と並ぶ、奄美・焼内湾、島人の呼んで、重里(いざと)、というメルヘンのような美しく清らかな里です。

アジヤ侵略の最前線、軍事基地オキナワを更に強化し、核武装するため権力者共は、琉球猟全体を石油と原子力の巨大はエネルギィ貯蔵庫にすることを企んでいるのです。アジヤ大陸の汚れた首飾りになってしまったヤポネシア引島の中に在って、僅かに残された真珠のような島々、鹿児島から台湾に連らなる琉球猟、中央集権的に"南西諸島、と呼ばれる部分こそは、悪魔共の最後の晩餐会場にふさわしかったのです。

これが私の被害を想であって欲しいと願っても、現実は日一日とそれを確信させるばかり、もはや逃げるにも逃げ場のないのっぴきならない立場に追いつめられて、人民の事命に最後の可能性を賭けるまで、す。季節は今、北西モンスーンがどっしりと居座り、 奥里の岸辺をギタギタと白い牙が襲う、 澳師にちの骨体みの冬。 水平線の彼方、 遙かなる 西方浄土に向って、 合わせる掌さへこればむ狂風の時「ヒマラヤの氷河に埋没した、アメリカ軍の原子力施設から、プルトニウムが放出して、ガンジス河を汚染している恐れがある」 あらゆる罪を洗い浄める聖なるプルトニウムの水よ!!??



さて「勇里物語」の講釈師、手前、生国と発しまするIJ雪園飛駄高山、没落地主の長男 坊として、新石器40037年(昭和12年)1月2日に生を受け、山田塊也。などとい う、おっそろしく重たい名前をいたぐき、それに対する反動から "ポン" という、他愛も な(軽い仇名を名乗ることになりました。幼児より病弱にしてひたすら読書と空想に耽り、 「緑の無人島」「十五少年漂流記」「源平盛衰記」などより決定的な影響を受け、その結果が 枝手久島とコミューン運動と石油基地斗争ということになりました。八年か、って小学校 を卆乗する頃、最後の重病"脊髓カリエス、を脱しましたが、生涯"せむし、の身となり ました。 次市に夢は膨らみ、悪童たちを煽動して、ターガン小屋などを作って、訓錬し て来ました。高校は一年で見切りをつけ、伝統焼き物の絵付けと、京都へ出て友禅梁の画 エという徒帯転人生治を五年间もやった後、23才でドロップアウト、街頭、バーなどで 似額絵を描いて上京、イラストレーターを志望する一方、次才に前衞芸術の熱病にやられ ましたが、新宿ビートニックと交るうちに、力ネと有名への野望は決定的な崩壊を遂げ、 リンソクひとっで全国を放浪、禅やヒンディイズムの影響を受け、167年、諏訪之瀬島にコ ミューン作りに入植、この頃より "ヒッピー、なる名を冠されました。ワー~ワス年、印 パ戦争たけなわのインドをワケ月间巡礼、帰国直後、列島改造論によるスワノセ島巨大観 光雨発に対する「ヤマハボイコット運動」を展制、75军正月、琉球弧キャラバンを経て、 同年八月、ついに自由を求める彷徨の果てに、この奠里の住人となり、無人島に自由の砦 を築きましたが、その結果、この通りガキ共に包囲され、妻や仲間たち、島人たち、そし て反権力を戦う各地の同志たちとの、関係性の蜘蛛の糸に、がんじがらめにされてしまい ました。出家者たちの言う"世俗。に捕えられたのでございます。ジャイ ラーマ!!

奄美民族世界を襲った日帝権力の死の謀略、賛成派、反対派、さながら源平合戦のごとき血の轍の中に展開する。反公害天戦争、を、私はヨソ者として、客観的に観察し、物語ることが出来そうですが、どつこい講釈師である以前に、何よりも行動的革命人であり、ア央の素材たることよりも、断固としてア史の主体たらんとする私の視座そのものが、既に、あまりにも深く状況と一体化しており、語ることは未来を創造することであり、現実よりもリアルな物語を、未来に提供することでありますが故に、これから語ります空前絶後、前代末間、超恕号級の世紀の革命大口マンは、必ずや600円の木戸銭を頂いておりますお客様方を、檄するものと存じます。

「かくて革命は勝利したのであります。メデタシ、めでたし」という大団円の予想は、 今のところ全く無く、従って"あなたの物語、が続く限り、"私の物語、も続くわけです。 よるしく、末永く、おつき合いの程をお願いします。それでは今回は、そも事の発端で ある私の"軽はずみ、から、その結果である"神飴的現在、までを、波の音、風の音に東 せまして、ひざ、物語りましよう!!!



ヤーの卷 奄美入植まで

才1話 枝手久島との出会い

40075年1月

中2話

琉球狐キャラバン

75.1~3

沖3話

枝手久息探訪

市4話

枝チ久斗争の背景

为5話

字検村の分裂

市6話

運命の決断

为7話

奄美へ

75.8

余談

奄美独立への革命児 新元博文

才8钴

欠志 部落

才9話

久志地主集会

75.8

75. 8

75.9

#### 尹二0卷 無我利道場定置

才10話 入植

曹军祭

才12龄 余談

部落会解散

才/1話

久志老人会

オ13話

人身御供

才14話

决意表明

才15話

無找利丸進水

才16話

枝 チ 久 岩 落成

才4回 枝手久祭

才/8話

村議選

75.11

76.1

76.4

7.6 . 8

76.8

76.8

余談 **利民会議と郡民会議** 















死と生とMA-T計画 40076年9~12月 才19話 環境調查阻止 才20 話 777.1~3 才21話 結婚式 777.4

才22話 九州住民斗争奄美合宿 '77.5 中23話 水俣、三里塚へ 777.6~7 才24 話 広島、長崎、 平和集会 777.8 才25 鹄 アブリ連 177.8~12 余談 アブリ組合 才26話 **運業権向題** 178.1~2 才27 訪 `鱼里人、創刊 178.3 才28話 モズク網撤去 78.4~5 才 29 詰 名瀬への仂きかけ 78. 才 30 詰 中6回 枝手久祭 778.8 才 31 話 維摩の誕生 78.9 才 32 話 風雲 瀬戸内町 78.10 才 33 話 裁判斗争と直接行動 78.11 才 34 喆 安良オジの死 78.12 才 35 話 アブリ組合解散 78.12

焼内湾のゲリラ隊長 山下春英 余談

才 36 鈷 新春況起集会 '79.1



#### 声なき人民の声

「ワシは何も考えんことにしてある。考えたら迷う。質问された時だけは考えて、ちったあ答えるが、普段は何も考えんで、ボヤーツとしてある」

「自分の食う物は自分で作る、余った分は人にやる。人生って言うのは、こういう簡単なことじゃ。芋ガラは食えるが、家柄は食えんぞ」

「デモってのはな、風呂……何て言うべえか、あの、サウナ風呂みてえなもんだな、汗かいて、若返って……しかし何だな、やっぱり一合ビンの一本も、ホゲットに入れて行かなくちゃ、せっかくのデモが勿体ないよな!」

「戦いちゅうもんはな、3,4,50代、壮年どころが命張らなきや勝てねえよ。ワシはワのじや、何も出来ん。集会でも、デモでも、何処だって行くが、何もせんよ。た、立っとるだけじや。機動隊が前から来ても、後ろから来ても、ただ立ってある。ワシの周りを、学生と機動隊が、行ったり来たりしておるが、ワシは突っ立って、足でか石を集めておく。手は使めん。何の抵抗もせんが、逃げもせん。たべ「石はこれだけあるぞ!」ということだけは見せておく。そして黙って立っておる。立っておるだけではない、睨んでおる。時々、若いのがやられて、腹に据えかねる時だけ足を出す。しようがなかっぺ、足の方が勝手に出るだ。奴らスツ飛んで行くぞ。転がった奴は、キョロキョロしておるがワシは何もせん、たべ立っておる。立っておるだけではない、睨んでおる」

「百姓ってものはな、デカくても小さくても、田んぼと庭に囲まれた一国一城の主みてえなもんよ。だからどうしても、テメエの城だけでも守るうとするんだな。だから見る、敗け続けて来たじやねえか。だがな……テメエの城など、打っちゃっといて、撃って出なきや戦には勝てねえよ。そこんとこに皆が気付けば、ワシらは勝てるってことを、このごろだんだん 想うようになったなア」

三里塚 176年6月. 破壊された岩山大鉄塔跡の砦にて 種堀老人行動隊 吉橋 光をより 如是我園

### ヤーの巻 奄美入植まで オノ語 枝を久島との出会い 175#18



「え? (すだって、オレ? /\// …… 面白そうだな」と、私はその時、自らの軽口を あいまいにゴマ化したのですが、結局は運命の女神のニヤリと笑うま、に成りました。

校手久斗争三年目の春、激烈な奄美ナショナリズムが退潮し、持久戦の実力をつけるべき時期、「奄美の、奄美人による、奄美のための戦い」が、反権力斗争としての普遍性を志向し始めていた頃です。奄美存亡を已が運命とし、天太的アジテーターとして、恥ずかし気もなく大風呂敷を広げる、キューピーフェイスの若き人民代表、新元博文にあのような不用意な軽口を発したところに、我の運命の、勝手気まぐれ、の至高卓があったのです。

島は女です。母なる大地と言いますが、確かにインド大陸での、母なるもの」実感は大したものでした。ところが島となると、母なる大地である前に先ず女なのです。キュラモン(美人)もいれば、バシャヤマ(ブス)もいる、誰とでもすぐ寝るのもいれば、「惚ればれするけど近づけない」 お高いのもいます。

| 授内湾に静かに寝そべる枝半久島が、\*離れなば落ちん。の風情なのに、最近2~30年は全く人間を追放し、毒蛇ハブの恐怖の原野に還ってしまったということ、更には彼女をめぐって渦巻く人間世俗のドラマが、彼女の神秘性に一段と輝きを与えています。この危険な女に、にじり寄り、かきくどき、その胸の内を南かせ、己が種を宿さすこと、そいては夢見る男にピっては、スペシャルな欲望というものです。

東京国分寺に、C.C.C太使館という拠奌を置いて、本格的にスタートした「スワノセ島 を守れ!ヤマハボイコット運動」は、僅か一半でヒッピームーヴメントの沸臭に達しまし た。ロックイヴェントの未曽有のエスカレートに反して、斗争そのものは新しい展開が無 ければ、どうにもならない状態でした。既に、スワノセ現地では、ヤマハの工事がどんど ん進行していました。私は、反打運動の言い出しっぺとして、自らを人身御供にすること で、ヤマハというやたら評判の良い企業に、決定的な汚名を浴せることを決意しました。 世界中のヒツピー連中を集めて巨大 ロロックコンサートを行い. その中でヤマハの悪ロ をまくし立てながら永久断食を行う計画を立て、その拏りの場所を品定めするため琉球猟

75年正月、ボブ、エヘラ(この二人はその後、西表島に入植し、現在もがんばってい ます)トシ、そして私の4名は、奄美を振出しに二ケ月余の巡礼をしました。その振出し で私は、枝手久島に出会ってしまったのです。「ハハハ……面白そうだな」とだけ答えて、 海洋博削近の沖縄から、八重山諸島を巡って、次のような事実を知って唖然となり「ヤマ 八ごとき小物のために、死ぬわけには行かんぞ!」ということに成りました。

キャラバンを思いつきました。私にとって、奄美は10年ぶり、沖縄は初めてです。

即ち、島々は全て中央権力に対して、振子状にぶら下っており、島づたいの連帯は皆無 に近いということ、いわば前近代的な島宇宙のま>ヤマトの種民地と化しつ、あること。

沖縄軍事墓地のエネルギー貯蔵庫としての奄美その他の石油墓地計画、そのカムフラー ジュとしての諏訪之躪その他の観光墓地、という日帝権力のトータルな侵略乍戦が、この 旅を通して次才に明確になって耒たのです。それと同時に、私たちは苦しい戦いを続けて いる現代の菩薩とも言うべき人々に出会いました。この無名の英雄たちとの出会いは、即 ・ち無言の盟約でした。

死のロマンチシズムは急激に色褪せ、生への渇望が 奔流となって、私を変革して行きました。

東京へ戻って、機関誌 "オーム、に、キャラバンの しポートと「琉球郊公宮侵略地図」を特集しました。 この地図に対する反響は、驚くほど大きく、 このようなトータルで見すを、反権力側がいかに 等肉にして来たかを、再認識しました、

ちょいと出ました"ヒッピー野郎、の、 思いもかけないヒットでした。



「ハハハ……面白そうだな」が、私の内部でリアリティを獲得して行ったのは、ハブのせいです。私は完全に"ハブノイローゼ、にやられていたのです。 枝手久島を一目見て以来、私は彼女の神秘さに、恋の虜になっていたのですが、その想いは"危険、によって燃え上がるのです。

スワノセは過去の女と同じように、急激に私の内部から去って行き、枝手久へのアプローチと同時進行的に関った、ミオという生身の女との相乗作用が、私をロマンチシズムのがむしやらな行動へと駆り立てました。4ヶ月後、ついに会いたさ見たさに恐さを忘れ、単身、奄美を訪れ、博文と再会、枝手久島に渡してもらって、砂次にテントを張って五日 同をすごしました。梅雨の合向の黄金の日々でした。

昼は鎌一丁を頼りに、荒い果てた畑や水田の跡に踏か込み、農薬にも化学肥料にも犯されていない汚れなき土を握り、夜は決に焚火をして世界の静寂を楽しみました。対岸部帯の灯が、そこに世俗という喜怒哀楽のドラマがあることを物語っていました。石油基地斗争をめぐって、全奄美人を揺り動かしている当の전手久島の神秘な沈黙が感動的でした。

もともと枝手久島は、湾内に住む人々の信仰対象でした。頂上には月宮殿と呼ぶ聖所があって、百姓と演師の生治サイクルを支配する月が祀られています。特に近年になって、湾内一周道路が開通してからは、村内の神々が全て枝手久島に引越したと島人は言っています。「霊的ヴァイヴレーションは、人口密度に反比列する」とヨガ行者は言ってますが無人島に孤りっきりというのは凄まじいものです。全宇宙が、礼を見つめているのです。

夜は浜辺に出て涼むというハブの習性を知ればこそ、この夜の感動と戦慄は、正に初夜の名にふさわしいものでした。「人間を追放し、現代を拒み続けて来たこの野性の女が、ひたすらに貞操を守って待ち続けて来た男こそ、このオレではないのか!?」という、恋する男の勝手な自惚れが、結局は「虜になったのは、男だったとさ!?」ということに成るわけです。

### オ4話 枝を久斗争の背景

私がスワノセ島現地で仲間にちと「ヤマハボイコット」を、十世帯の先住島民に仂きかけていた「73年春、僅か200K肌足らず南にある奄美では、東亜燃料 КК(資本の半分以上はアメリカ、エクソン系)の、校手久島石油精製基地計画が明白にされ、反対運動の火の手が上ったのです。沖縄、金式湾又然り。それなのに「自分の島のことは、自分たちだけの問題なのだ」という島呆けの悲しさ、私は島々と連動することを考えもしなかったのです。その結果、私は一年间の徒労の末、現地斗争を諦めて都会から攻撃するという、ひどい後手に回らざるを得ませんでした。

では丈処で、私が参戰するまでの枝手久斗争の成り立ちを説明しておきましょう。

奄美民族は、自らの厂央を持つていません。奄美の厂史は、三百数十年昔に始った暗黒の支配者、島澤薩摩藩と、それ以前の支配者であった琉球王朝の古文献の中から、類推するしかないのです。島人(シマンチュウ)と太和人(ヤマトンチュウ)が、同祖であれ異祖であれ、両者の向には伝統的な生活文化、言語から社会構成に至るまで、厂然とした祖違があり、長年の差別が存在しているのですから、枝手久斗争は公害予防をテコにした、民族的復権運動となり、奄美自立の祈願に支えられたナショナリズムの奔流となりました。

薩摩の弾圧と搾取は、地獄の極みでした。そしてこの苦難と悲惨の中からの芸術的昇華として、燦然たる島歌が生まれたのです。中検打は奄美の歌どころとも言われています。 さ此ばこそ、中検打は元焼内打と呼ばれ、文字通り薩摩への反逆に"焼打ち、した打なのです。 校子久島の山頂には、ムガリ者(反逆者)たちの見張り所があったとも聞きます。

その枝を久も頂上近くまで、近隣部落からの通い農業によって、砂糖キビが値之られ、 黒糖の重視に泣かされた時代もあったとか。明治維新は、薩摩藩による"封建制の極北、 とまで言われる半奴隷的農奴制の強化による、奄美の血税によって成されたのです。

戦後8年、飲えと苦役のアメリカ軍統治を経て、念願の"本土、復帰も、ヤマト資本主義の再支配下に就くことでしかなく、拝金主義と物質文明が、共同体世界の調和と土着文化を内部から突き崩し、いずこも同じ若者収奪と過疎を酸化、宇検村の人口は戦後30年で分の、二年数百人に激減し、未だ止まるところがありません。

ところで、差別されて来た者は、心然的に同族同胞と郷土への絆を深めます。島人は何如へ行っても、ヤマトンチュウとの間に、海、を感じたのでしょう。鹿児島、関西、関東 かうブラジルに至るまで、奄美群島内現住民 15万人の約3倍と言われる島外奄美人たちは、心ず都市辺境部に集まり住み、シマ(集落)を形成しています。沖縄人部落と隣合わせにです。その郷友会なるものも、単なる親睦会とはわけが違い、海の彼方の祖霊の郷土に対する、義務と責任を有する支援団体、お目何役的存在なのです。「ブラジルでも、未だ枝尹久島を見たことのない二世、三世をも巻込んで、賛成派、反対派の戦いが行われているのです」という話を聞きました。

#### 才5話 宇検村の分裂

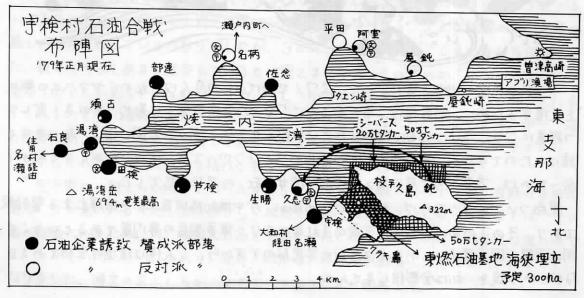
ジマ、という言葉は、延義には目らの部落を指します。十数年前に沿岸道路が周通するまでは、交通をもっぱら船に頼って来に世界では、隣部客の人間といえども、他島人。「はのです。そして、言葉使いから歌、踊り、気質に至るまで、たった半キロしか離れているい部落間にさへ、微妙な相違があるのです。 血縁同族共同体を秩序とし、権威とし、信頼と相互扶助によって支之られ、祖先を崇い、自然と調和ある土着文化を培って来た島宇宙が、衰退し、治力を失い、旧態然たる地域ボスと部落エゴが、ヤマト権力と結びつく時、内なる長年の歪みと腐れを露呈して行きます。

枝尹久向題は、宇検村 | 4部落に澤まじい衝撃を与え、血縁地縁社会を真二っに引き報きました。計画発表と同時に"反公害宇検村民会議を結成、村役場と真向う対立、運動会から祭りまで、同日別会場で、反対派五部落合同で行うという"中立、を許さない戦いが、制始されたのです。

賛成派は村役場所在地であり、二百数十户という最も大きな部落である湯湾を中心とする湾奥部落と、ボス体制の徹底した宇検部落。ヤマト資本の奴隷になっても、旧い共同体秩序を維持しようと懸命です。部落全員一丸となって、誘致賛成派はどという後進的現象を呈していますが、内部ではどんどん解体作用が進行しています。

一方反対派は、最も治力を保ち、全員-丸とは、て反対する平面を中心に、一角を壊すればがらも分裂を懸命に取り繕う名柄、阿室、屋鈍、そして悲劇の主人公とも言うべき共同体解体の久志。平均数十户の部落です。

南国特有の血の気の多い島人の激突は、斗争勃発当初、再三に渡って流血寸前にまざ至り、特に73年12月の湯湾での 5000名総決起大会には、機動隊や消防車まで出動する 大乱戦を行っています。



一多一度、ヒッピームーヴメントという情況から、身を引きはがし、私的幻想のガムシャラ な行動の中から、総体のメカニズムを把え直す必要がありました。ヴェトナム戦争の激化 と共に、アメリカ国内の反戦平和運動として抬頭して耒たヒッピームーヴメントも、ヴェ トナムの勝利と共に、体制内風化されて行きました。ヤマハボイコットには、積極的な応 揺をしてくれたアメリカの仲向たちも、差別された痛みを知らないが故に、その反体制運 動を、革命にまで過激急進化することが決して出来ないということを私は悟りました。

多分にアメリカ、ヨーロッパの影響を受けて育った日本のヒッピームーヴェントも、こ の時期から独自の革命斗争を志向せざるをえなくなったのです。折から仲間たちは、ヤポ ネシアを縒断して、北海道に集結するミルキィウエイ・キャラバンに、新しい方向性を打 ち出そうとしていましたが、私は、このあまりにもプログラミングされた運動に、何のヴ イジョンも、狂気も感じられませんでした。「自らのための狂人たれ!」これです。

7月に東京でミオと結婚し、2末になった万葉の父親になり、枝手久入種を決意しまし た。「毒蛇の無人島へ女子供をつれて入り込むのか?」と向われても「行動すれば、付ら かのヴィジョンは展南するはずだ」としか答えようもありません。とりあえず スワノセ にミオと万葉を置いて、私が板手久島を南墾するまで待機さすつもりで、8月の1日に単 身、スワノセへ先発したのですが、連絡船 "十島丸。は、スワノセを目前にして台風接近 のため、鹿児島へサターンしてしまいました。入植以耒8年目にして、私には初めての体 験でした。「彼女とは、もう終ったのだ!」と、懐しい島影に合掌して悟りました。この **片輪の小男に、これほどの**自信を与え、自らは時代の犠牲になって去って行った女。



インドの天国と地獄を共に歩いた、スワノセ時代の私の恋人は、私の"ヤマハとの戦い、 を支援するために、別居後は、事もあるうに「ヤマ八音楽教室」に勤め、そのま、少しづ つ疎遠になり、ついに体制内結婚したという報らせを伝え聞いたと同じ頃に、私はミオと 結ばれたのですから、運命のえも言われぬ竹味というやっです。実は、私がミオと初めて 会ったのは、万葉がちヶ月になった頃の、彼女不在、のスワノセでした。

運命ついでに言うならば、私のすぐ下の弟が、今や機動隊何百人かを指揮出来る警部殿 であり、その下の弟は、天下の三菱の正社員であり、軍事製品の専門家であるということ、 同じ両親、同じ環境、しかも一つ違いの年見なのですから、「人间は環境の産物である」 Gごという説を、私は全然信じませんね。



さてその翌日、台風一過の荒れ狂う海を奄美へ、名瀬で枝手久入種の最初の同志、サスケ、エーコと合流、博文のトラックの出迎之を受けて平田へ。その時になって突然、ハッと気がついたのです。「無人島南発の拠臭、ベースキャンプがどうしても心害なのではないか?」と。これな肝心のことを、現地に着くまで思いつかない程、私は枝手久の"夢、にのめり込んでいたのです。これから反対斗争の砦を築き、自給自足の生治の基盤を打とうと言うのに、資金は多少のカンパと、鹿児島のバーで稼いた合計数万円が全てでした。建築資林や、船を買うことも考えたのですが、そのために何日かをつぶすのももどかしく、「必要なものは、神が必ずあチえ下さる」という信仰に全てを賭けたのです。

とりあさず、雑木で丸太小屋と筏を作るつもりで、ロープや番線などはたっぷり買い込んで来にのですが、今にして思えば気狂い沙汰です。ターザンごっこの経験から、自然の厳しさは十分知っているつもりでしたが、38才、分別盛りにして万事がこんな調子でした。数えて43大、あまり進歩しているとは思えませんが、そのせいか「ポンのやることは危なっかしくて見ちゃいられない」と、「しつかりした若者、たちが、いつも助っ人に来てくれるのです。権威主義など飛んでもない、モタモタして叱られっ放しです。ヤー、海の世界にあこがれ、毎日海に出て生治しているのに、私は未だに力ナズチなのですから。

しかしそれはそれ、大能の多様性こそは、人民軍の力ではありませぬか。

「空き家の一軒くらい何とかならんか?」と、博文に相談したのですが、当時の平田部落は、ヨソ者の入る余地も必然性もない状態でした。なにしるほんの一昔前までは、ヨソ者が部落に入るためには、保証人二名を必要としたとか、 村落共同体の排他性は強いのです。しかし、博文に一計があり、翌日、対岸唯一の反対派部落、久志に案内されることになりました。博文のおふくろが、 25-440、であることも因縁です。

# 场斗争 78年 2月号より

## の革命児 奄美独立へ 新元博文

る奄美世』とは、数百年の霧の彼方 歴史を持った覚えが無い。。島人によ を沈淪させた。琉球と薩摩との谷間 絶望と悲哀が、虐げられ、差別され ヤマトの出世コースを足蹴にした。 らが奄美人であることを明かして、 貝の暴言を聞き流した翌日、 辱と怒りに総毛立ちながら、 安く手に入りますぜ」中学卒業生が でも人買いに行きましようか、 確かにそれは、 村落世界そのものが巨大な虚無の中 の神話でしかないのだ。そして今、 で来た少数民族奄美は、 に在って、 "金の卵"と言われた頃の話だ。屈 農漁業の衰退と若者収奪によって、 て来た己が民族の魂の深淵へと、 に没しようとしている。。奄美独立。 、んなら中学出のピチピチしたのが こうなったら奄美大島へ 長年の搾取と支配に喘い 狂人の妄想、戯言で 自主独立の 彼

> 島へ帰ろうと決心した」飾る錦も夢 内部で何か、落ちたのだ。とっさに、 庭を眺めていた時「突然、ポトンと っていたものは、 てに、とある古寺に坐して、 輪の花が落ちた。そうだ、オレの 在日奄美人』の孤独な彷徨の果 悄然として帰った故郷が待 それから半年後 暗然と

燃KKによる「枝 七三年二月の東

手久島石油基地

計画」であった。

徹底的に主観的 念が一気に方向 の "奄美ナショ 枝手久闘争初期 ズムの強味だ」 つがナショナリ なものだ、 った。「民族とは に形を成して行 する理念が明確 を見出し、錯綜 鬱積していた情 そい

とうとか

た」式の支配者側の歴史は、 があったのである。 は、この天才的アジテーターの暗躍 ナリズム』の猛然たる爆発の背後に 「コロンブスがアメリカを発見し 今こそ

しかあるまい。

すことなく、闇に葬られて来た真実 ならない。歴史をアカデミズムに堕 人民の名によって書き改められねば

> として、 り立て、 熱血児を世に贈ったのである。 年の陣痛の末に、母なる奄美はこの 動的歴史家こそが必要なのだ。 れて来た者共の怨念をして行動に駆 を暴き出して奸計を見破り、 戦う現在に生かすための行 鎮魂と新たなる団結の鉄 抑圧さ

宇検村十四部落のうち、 田という、 とまっている平 貝が反対派でま 倫理によって支 閉鎖性と骨肉 は言え、 博文もない。 無くしては、枝 美では平均的 腐れと歪みは、 着共同体社会の えられて来た十 手久闘争も新元 十名の部落(奋 唯一つ全 長年の

闘争の、 作りに献身する山下春英(41)と共 彼の闘争は、時に孤立、時に脱線 扱いの熱々たる部落の区長を務める モンをつけ」このムガリ者(反逆者 を怒らせ、 伝統的な網漁を復活させ生産共同体 平田部落の両輪として、 ひいては奄美存亡の鍵を握 現存する先輩達にイチャ 枝手久

ではない。「墓中 此処でも又例外

未だ嫁の来手もなく、

た母と二人暮らし、

げられたんじゃ、オレは何して来た らん。実際今の段階で、悪党共に逃 燃を追い出したって勝った事にはな というものはもはや存在しないこと つ解決していないじゃないか!」 共同体再建、過疎老齡化、 のかさっぱり分らんよ。自力更生、 が明白になって来た。「たとえ今、 て行かない限り、。部分的勝利。など "近代"を超克する意識にまで高 あらゆる面での革命にまで推し進め 争は、それを政治、 ていると言っても過言ではない。 民族自決への、奄美自らなる自己 公害反対に端を発した地域住民闘 経済、文化など 未だ何

らぬか好漢三十七才にして 命児、このロマンチスト、 かけを作り、琉球弧、九州、 我々に"奄美ナロードニキ"のきっ めの戦い」を、世界同時革命の視座 変革。"奄美、わが主体』を公言し 三里塚へと連動を広げて行くこの革 で捉え、、脱ヤマトンチュウ』である 奄美の、奄美人による、奄美のた それかあ 更には

矛盾そのま、の苦しい片肺 鹿児島県大島郡宇検村久志 奄美の 老い 山田塊也 =紹介者= (無我利道場

飛行なのである。

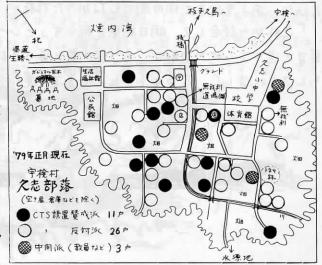
#### 才8話 欠志部落

島のあと言の大半は、久志部落の人々の私有又は共有地です。 もともと近隣部落から船で通って農棄を営んで来に無人島を、明治の地租改正の時、欠志に犬人がいて村長を丸め込み、久志人の名で一括登記してしまったのです。隣接する申検部落とは凄まじい流血事件があったそうですが、とにかくそれ以来、久志と宇検とは宿敵となり、三方を山に迫られ、耕地の少い久志人は、終日、枝手之島へ通って生計を立て、末たわけです。

かっては百数ナア、百隻もの板付け船が、犇いていたそうですが、戦後、過疎化の波を まともに受け、現在は40户に100名足らず、村内でも老齢化の進んだ部落です。枝手久通いも2~30年途絶之、眠るが如く衰退し、大自然の風景に没するかに見えた失生、 73年2月、降って沸いた石油基地騒動。枝手久島の地主にほの相談もなく、村のボス連中が勝手に一切を処分しようとしている事を知って老地主たちはカンカンに怒ったもの、こてどうするか? 土地に対する執着もさることながら、枝手久島を生命の恩人とも想い、信仰の対象のような感情を抱いている老人たちは途方にくれた。なぜなら、部落の実権を預けて未た中年二人のボス、図式通り土建業者と村議員が、事もあるうに宿敵宇検のボス連中と手を組んで、枝手久売却の張本人になってしまったのですから。

老地主にちの不安と絶望の中へ、突然、関西から二人の中年男が帰って来ました。「久 志のジイサン、バアサン、関西から嶺清助と橋口富秀が帰って来ました。 枝手久を守るために共に戦いましよう!」マイクをつけた黄色い1トントラックに駆け寄って、 老人たち は喜びに泣いたとのことです。

この日から、部落を真二っに割って、反対派と賛成派の血肉の抗争が開始されたのです。血縁憎悪と種内攻撃、闭ざれて東た世界の内部の腫が、一気に噴出し、人間社会の原型、現代の縮図とも言うべき、赤裸々な状況を呈するに至ったのです。小中学校はありますが、約40人の生徒は、いずれも両隣り賛成派の子供ばかり。夜は裏山でフクロウの歌。ポポッ ポポッ キャハッキャハッキャハッ



#### **却**9 箭 久志地主集会 '75 ¥8 月

夕方、博文に案内されて、当時久志区長を動めていた橋口さんの家に行くと、そこには 反対派の人々、いわば枝手久斗争の要とも言うべき地主にち三十名近くが集っていました。 その顔がれを見て一瞬、私はギョッとしました。中年の橋口さんと、唯一の若者、勇都 久人を名いては、ひずれも70へ80の老人ばかり、しかもその人相の多種多様なこと、 長军、似顔絵を描いて来た礼ですが、これほどの壮観は初めてです。

博文の紹介して日く「ヒッピーと言っても分からんだろうが …… まあ 渡り小作人てとこるか」 たんたちは領いていました。「枝を久島を 闸墾して 焙を築き、 若者の共同生活の場を作りたい」という私の希望は、 老人パワーのまとめ役である 橋口さんが「私は全面的に歓迎したい」と意志を表明したことから、 誰は九分通りまとまったようです。

私の方から普を立てました。「例え一人になっても、枝手久を戦う人がいる限り、私は此処に留まります。しかし全員が『もう沢山だから出て行って欲しい』と言うならば、即刻、私は立去る」と。いずれ書面にするつもりでしたが、未だにやっておりません。

周拓は私がテントを張ったドン(正確にはDun、鈍のアテ字)から始めるのが良いだるうというのが皆の意見でした。一っだけ注文がつきました。「もし食糧危機が来て、内地から子や孫が引揚げて来た場合は、せっかく)用墾した畑でも返してもられんばならん」というわけです。「勿論、その場合はよへよへと)用墾して行けば良い、なにしる昔は山頂近くまで畑があったんじゃから」ということでした。

とこるで、夕度は橋口さんから希望があって「枝手久雨墾も大いに頑張って欲しいが、それ以上に何人かはこの部落に住みついて、老人たちの力になって欲しい」との事、正に渡りに船でした。ついでにこの席で橋口さんは「私は日本共産党員として、耒夏、村会議員に立候補することを宣言しておきます」と言明しました。かくて私は、日共と唯物論、という、およそ今まで何の関心もなかった存在が、リアルなものになって来ました。

「これから談合して、明日結果を報らす」ということで、その夜は平田へ帰りましたが、車まで送ってくれた勇都が「もう空き家を貸すというオバサンまで決まったよ」と、耳打ちしてくれました。万事がトントン拍手で、運命の段取り通りという感じでした。

